

# 川内萩ホールの響き

音響のおはなし・実験とスペシャルコンサート

東北大学記念講堂が、高品質の音楽ホール・川内萩ホールとして生まれ変わりました。この度、満員状態における音響特性の公開測定実験を実施いたします。この測定は世界的にも類のない規模のものであり、学術的にも極めて意義深いデータになると考えられます。あわせて、川内萩ホールの響きを体感いただくため、一流の演奏家をお迎えしたコンサートも企画しました。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

## プログラム

◆講演：東北大学電気通信研究所 鈴木陽一教授

- ・川内萩ホールの音響設計について
- ・音響測定の趣旨説明

◆実験：ホールの音響計測  
(満席時の残響時間の計測)

◆スペシャルコンサート

出演：野平一郎(ピアノ)  
漆原啓子(バイオリン)



野平一郎



漆原啓子



鈴木陽一

◆日時：平成20年12月10日(水) 16:30 受付開始 17:30 開演

◆場所：東北大学百周年記念会館

川内萩ホール(〒980-8576 仙台市青葉区川内40)

◆参加申し込み：参加費は無料ですが、入場券が必要です。

必ず実験に参加できる方に限らせていただきます(未就学児はご遠慮下さい)。

住所・氏名・連絡電話番号・「公開実験参加希望」とご記入の上

往復葉書で申し込みください。葉書は一名につき一枚をお願いします。

入場券をご返送いたします。

申し込み締切(平成20年11月28日 消印有効)

申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学電気通信研究所 先端情報システム研究分野内

<http://www.ais.riec.tohoku.ac.jp/~hagihall>



◆お問い合わせ：東北大学電気通信研究所 先端情報システム研究分野内

☎022-217-5461(岩谷, 齋藤) [hagihall@ais.riec.tohoku.ac.jp](mailto:hagihall@ais.riec.tohoku.ac.jp)

◆主催：国立大学法人東北大学

◆後援：仙台市 (社)日本音響学会建築音響研究会



# 川内萩ホールの響き

音響のおはなし・実験とスペシャルコンサート

## 東北大学百周年記念会館 川内萩ホールの満席時音響測定へのお誘い

このたび、東北大学の100周年記念事業の一環として、創立50周年を記念して建設された東北大学記念講堂を全面的に改装し、極めて高品位の本格的音楽ホール(川内萩ホール)が建設されました。本事業においてその音響設計を担当した当研究室では、満席時におけるホールの音響特性を予測し、それらが全て設計通りの性能を達成していることを確認しております。しかし、ホールの真の響きは予測ではなく実際にホールを満席状態にして測定することでしか明らかにできないものです。そこで今回、仙台市内の多くの皆様にご協力いただきまして、満席状態における音響測定を企画致しました。このような試みは世界的にみてもほとんど行われておらず、学術的に極めて意義深いデータが得られると考えられます。

## 音響測定

川内萩ホールの音響設計を担当した立場からホールの音響特性について解説をした後、今回の音響測定の趣旨を説明させていただいた上で、実際の音響測定を行います。具体的には、皆様に座席にご着席いただき、ステージ上に設置したスピーカから測定用信号を放射座席及びその周辺に設置したマイクロホンによって音を収録という作業が行われます。測定には数分程度の時間を要しますが、正確な測定のために、皆様には測定のあいだ音を生じさせる行為(会話など)をお控えいただく必要がございます。なお、今回の測定でスピーカから出力される音の強さ(耳元で最大80dB)は地下鉄の車両内における騒音(約90dB)よりも小さく、聴力への悪影響のない安全なレベルのものです。

## スペシャルコンサート

測定後に一流の音楽家お二人をお招きしてのスペシャルコンサートを催し、ご協力いただきました皆様に川内萩ホールの響きを体感していただきます。出演予定者は、ピアニストの野平一郎氏とヴァイオリニストの漆原啓子氏です。お二人とも国内外で活躍のみなさまおなじみの音楽家です。

是非、本趣意にご賛同いただいた上でご参加いただければ幸いです。

東北大学 電気通信研究所  
教授 鈴木 陽一

### [出演者プロフィール]

◆野平 一郎(ピアノ)：東京芸術大学大学院修士課程を修了後、パリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとして、内外の主要なオーケストラにソリストとして主演する一方、室内楽奏者としても活躍。古典から現代まで幅広いレパートリーを得意とする。作曲家としても活躍。第44回尾高賞、第55回芸術選奨文部科学大臣賞等多数を受賞。

◆漆原 啓子(ヴァイオリン)：第8回ヴィニャフスキ国際コンクールに於いて最年少18歳で日本人初の優勝と6つの副賞を受賞。その後、国内外の主要オーケストラと多数の共演。また、室内楽でも高い評価を得ている(1986年斎藤秀雄賞等)。CDも数多く発売しており、小林道夫氏との『J.S.バッハ：ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ全集』をEXTONレーベルよりリリース(2007年)。

◆鈴木 陽一：1981年東北大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。東北大学大型計算機センター助教授などを経て1999年より東北大学電気通信研究所教授。2004年米国音響学会フェロー。2005-07年日本音響学会会長。